八雲町郷土資料館農機類標本台帳

一般名称: 石臼	現地の通称:

資料種別: ◉製品-実物 ○製品-レプリカ ○製品-模型 ○製品図面 ○写真等 ○図書掲載 ○その他

資料種類: ☒人力用具 ☒手押式 ☐耕耘用 ☒調製用 ☐畜力用具 ☐乗用式 ☐施肥播種 ☐施設類 ☐原動機具 ☐牽引式 ☐管理用 ☐機素 ☐トラクタ具 ☐定置式 ☐収穫用 ☐その他

管理プレートNo.

台帳No. Y155

相手先番号等

統一分類記号

製作者・会社: 不明

製造市・国名

製造年_購入年,標本収集年

使用目的・使用方法等

臼類は、元来唐臼(からうす)と呼んで寛永(1661)年間に中国から伝わっている。稲では籾摺り用を言うが、一般的に土臼が多いため、標本が大きな石臼であり、むしろ製粉等に利用したと思われる。標本の用途不明
稲用の木臼（きうす）は、松材または樫材で作られ、土臼は、臼が竹網に入れられた土で作られ、その臼の摺面も樫の板を粘土（塩混入）で固めて摺歯としてある。この臼は、直径80cm位の上臼と下臼があり、下臼を定置し、その軸に上臼が載る。上臼には、1人用の取手または1～2人用遣木(やりき)が付けられ、これを引いて上臼を回転させると、上臼の供給口から入れられた籾(もみ)が、両臼の摺歯間で摺られ(籾摺り)、玄米(げんまい)と籾殻(もみがら、稃とも言う)に分かれて上下臼の間から出てくる

利用経過収集記録意義等

経過未調査

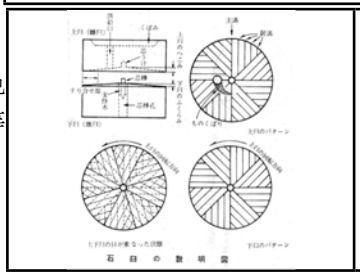
仕様書_解説等

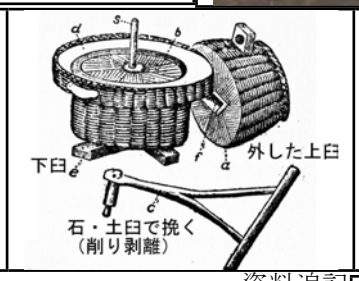
仕様未調査

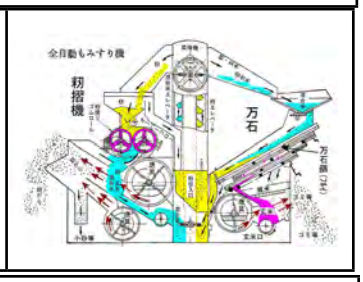
関連図1：臼の刃面形状
2：土臼、ハンドルを使って
多人数で回転させる
3：臼以前の籾摺り法
4：その後の全自動籾摺機
＝ロール式籾摺機＋昇降機
＋万石で構成する

右に全体図

外観特色関連図等







資料の所在: 屋外展示

資料追記事項

資料管理経過

作業メモ追記文

農業機械学会北海道支部「農機DB作成委員会編